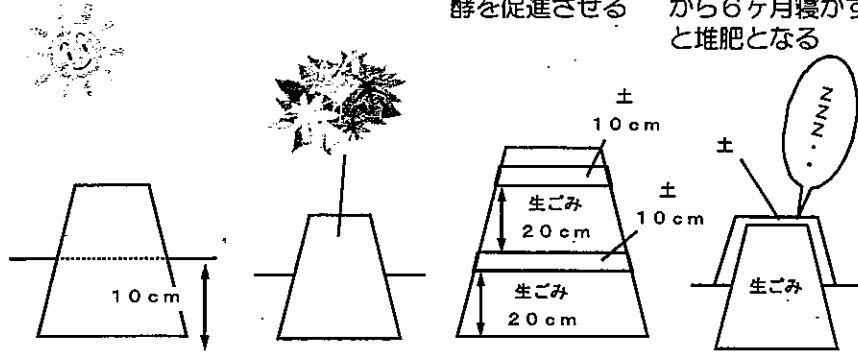


# 生ごみコンポスト化容器の使い方(例)

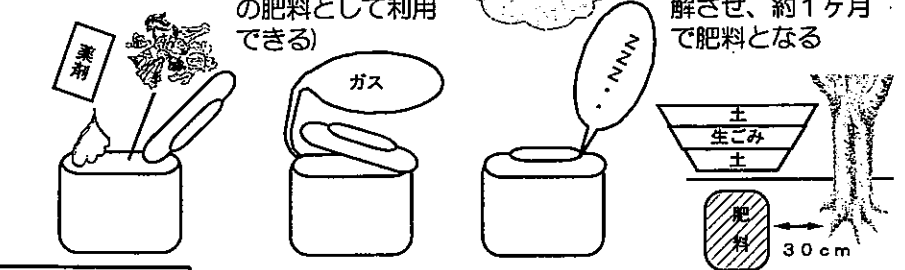
## コンポスター

- ①日当たりの良い場所に穴を掘り、容器を10センチほど埋め込む
- ②生ごみを容器に投入する際、水分が多すぎる場合は落ち葉や草などを投入し良く混ぜる
- ③厚さ20センチほどの生ごみに対し、土を10センチの厚さでかぶせると、生ごみの発酵を促進させる
- ④容器が一杯になったら空け(未熟なものは省く)、その上に土をかぶせて、おおむね3から6ヶ月寝かすと堆肥となる



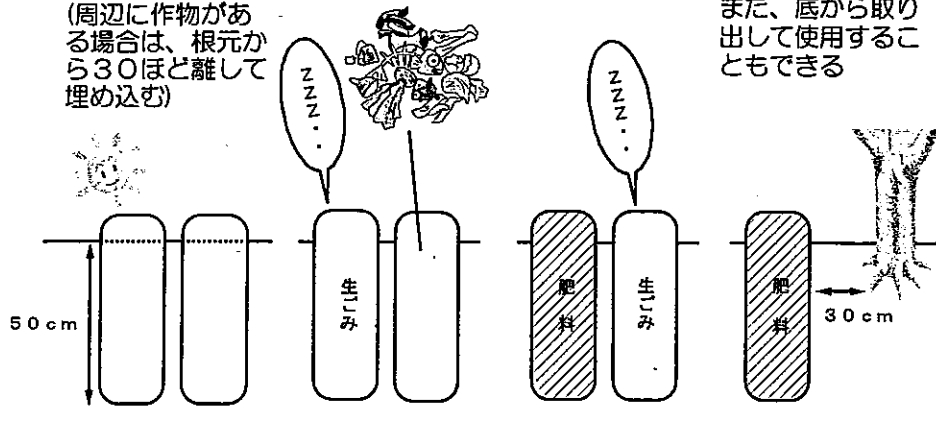
## EMサポート シールストッカー

- ①十分に水切りをし、細かく干切った生ごみを容器に入れる(卵の殻は砕く)
- ②ふたをしっかりと閉める
- ③①と②を約1週間繰り返した後、約1週間熟成期間として日陰で寝かせる
- ④③の後、プランターなら上下に土を入れてサンドイッチ状に、庭等なら作物の根元から30センチ離して穴を掘って埋め、再度寝かせる土の力で発酵・分解させ、約1ヶ月で肥料となる



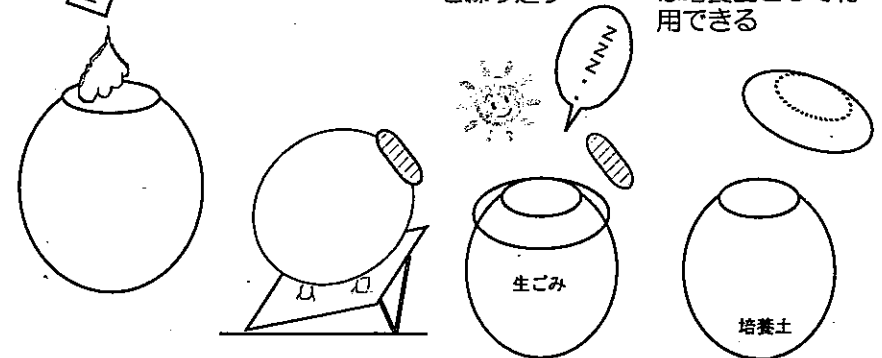
## ミラコンボ

- ①日当たりの良い場所に穴を50センチ掘り、容器2個(4個)を埋め込む(周辺に作物がある場合は、根元から30ほど離して埋め込む)
- ②生ごみを投入する
- ③生ごみは容器がいっぱいになってから、おおむね6ヶ月で分解され、肥料となる
- ④そのまま土中に埋め込んでおくと周辺の作物に栄養分として吸収される。また、底から取り出して使用することもできる



## コタン

- ①付属品の「リ軽土」と、十分に水を切って細かく干切った生ごみを容器に入れる
- ②しっかりとふたをし、回転台の上に容器を置いて回す
- ③ふたをはずし、付属品の上部フィルターを取り付けて、日当たりの良い場所で保管する生ごみを投入するたびに、①から③を繰り返す
- ④はじめに生ごみを投入してから、おおよそ2ヶ月で全ての生ごみの重量の約3分の2が消滅する。残った約3分の1は培養土として利用できる



上記の使い方は一例です お問合わせ: 清掃リサイクル課/リサイクル推進係 03-5984-1097